

豊かな生活・豊かな社会

この通信は、不定期ですが、
月2回ほど発行します。

県が試算として示した「ゆたかさ指標」を新聞等でご覧になったことと思います。まだ正式なものではありませんが、「豊かさ」を計るものとして、本県独自の指標（35の要素）を点数化したもののようです。

「スポーツをしている」「ひなたの恵みを利用している」などの要素はかなり点数が高く、海や山などの自然や、ゆったりとした生活リズムの中に「豊かさ」を感じている人が多いことを表しているのでしょう。

一方で、「交通事故が少ない」「自己研鑽に取り組んでいる」などの要素はずいぶん点数が低くなっています。事故の多さを懸念したり自分を高める努力がもう一步だと考えたりしている人が多いことがうかがえます。

人づくりの分野では、「いい子どもが育っている」という要素がかなり高い点数となっており、その一役を担っている者としては励みになります。

ところで、『豊かな生活』『豊かな社会』というと、お金に困らず、必要な物が手に入り、心配事なく暮らしていける・・・、そのようなイメージを抱いてしまいがちです。

しかしながら、本当の『豊かさ』は人それぞれに異なる意味を持ちます。趣味に多くの時間を割きたい人もいれば、自然の恵みを受けて幸せな気持ちになる人もいます。生活に満足できるかどうか、これはその人の生き方や価値観と大きく関係します。

過去に、経済成長を続ける中で金銭的な裕福さや便利な物に価値を求める時代もありました。その時は日本全体が必死だったのだらうと思います。これから社会を支える若者たちには、自分に合った『豊かさ』を求めてほしいのと同時に、そのために自分のキャリア（生き方）をどう描くかということじっくり考えてほしいと思います。

最近では、AI（人工知能）の開発と進化がめざましく、広い意味では家電製品にまで応用されるようになりました。やがて生活の多くの部分で私たちをサポートしてくれるようになるでしょう。さらには、私たちの仕事がAIに取って代わられる時代がくるかもしれません。そのような中でも、自分なりの『豊かさ』を追い求めていける子どもたちを育てていきたいと考えています。



入試モード本格化



1月26日、27日は私立高校の入試です。願書等の書類も整い、先日提出を済ませました。入試シーズン到来です。

1月10日には、地域ボランティア6名を迎えて9年生の面接練習をしました。面接練習はこれまでも行っていますが、外部の方から直接ご指導をいただくとなると勝手が違うようで、生徒はこれまでにない緊張感をもって臨みました。

すでにその道を通ってきた私たちにはよくわかりますが、初めて経験する入試は相当なプレッシャーを感じます。励まし、叱咤激励しながら一つの山場を乗り越えさせたいと思います。

2年、3年という時間はあっという間に過ぎます。「我が子にはまだまだ先の話」と捉えずに、一貫校の利点を生かして、早い段階から進路や生き方について子どもとともに考えていただけたらうれしいです。

9年生で苦労するのは、それまでの積み残しがあるからです。学校はそれをなくそうと努力しますが、子どもの意識、保護者の考えが一致することで効果が高まると考えています。

避難訓練



火災を想定した避難訓練を実施しました。子どもたちの態度はとても真剣で、避難指示から2分30秒後には避難が完了しました。非常時には一人として犠牲者を出すわけにはいきません。訓練としては合格かなと思います。

避難後の講話の中で、南分遣所の方から、消火器を使うときの合い言葉は「ホッ・ピン・グー」であることを教わりました。どういう意味か、子どもさんにおたずねください。

訓練後は、3年生が消防車を間近で見学し、5年生は車両についているホースで放水体験をさせてもらいました。

ちなみに、3名の消防士のうちお二人は、小さな頃の夢が消防士だったそうです。夢をもつことって大事ですね。

お願い

学校では、インフルエンザ等の感染症予防のためにマスクの着用を推奨しています。19日（木）は小学部の参観日ですが、保護者の皆様にもご協力いただきますようお願いいたします。